



壺屋陶芸センター設計競技



壺屋地区都市景観形成地域にあって、「やちむん通り」の始点に位置するこの敷地は「壺屋の存在をしめす」きわめて重要な場所である。

この敷地には歴史的遺産『番所ガ-』があり、隣地には市立壺屋焼物博物館がある。

この建物の計画にあたっては、建物の内部はもとより、この建物と地域との関係、つまり、配置計画や景観計画が大切である。この計画に関して次のような点に特に配慮して計画した。

1「番所ガ-を中心とした石敷広場」を設ける。

- ・集会所と店舗前に面積約70坪の石垣と樹木にかこまれ、ヒンブンや赤瓦屋根をもつ石敷の広場を設ける。
- ・この広場は、博物館の前面広場や北の宮広場と連続している。
- ・この広場の樹木は博物館広場や隣地の民家の庭とともに、南又窯付近の樹木と連続し、やちむん通りの美しい緑の景観と緑陰をつくる。
- ・陽射しの強い沖繩にあって、木陰のある広場は多くの観光客、市民が集まる。広場は野外店舗やその他の催し物が行われる場となるだろう。

2「壺屋地区の歴史景観を配慮した建物」とする。

- ・敷地は商業地域であり大規模にすることができるが、ここでは、建物をできるだけ小規模におさえ、壺屋の歴史景観を大切にす高さや規模にした。
- ・前面の広場に樹木を植えるとともに、建物をセットバックさせ、しかも、雁行させ、やちむん通り側の圧迫感を和らげている。
- ・小さい赤瓦の庇を数多くリズムカルに配置し、バルコニーを緑化するなどして、美しい景観をもつ建物外観とした。
- ・建物本体の前面に木造赤瓦葺の集会所や小さい東屋を配置し、建物全体のスケールダウンも計っている。
- ・建物本体の4階ファサードを博物館建物の高さや面をあわせ、統一感をもたせている。

3「木造赤瓦葺の町集会所」を敷地角に設ける。

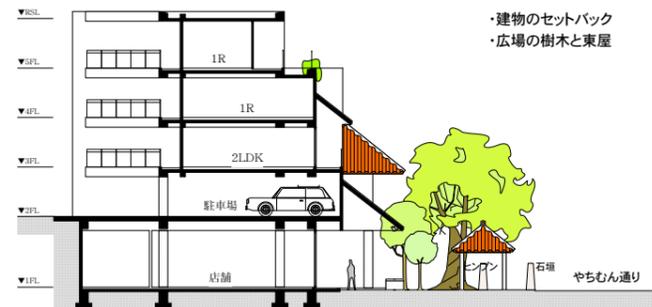
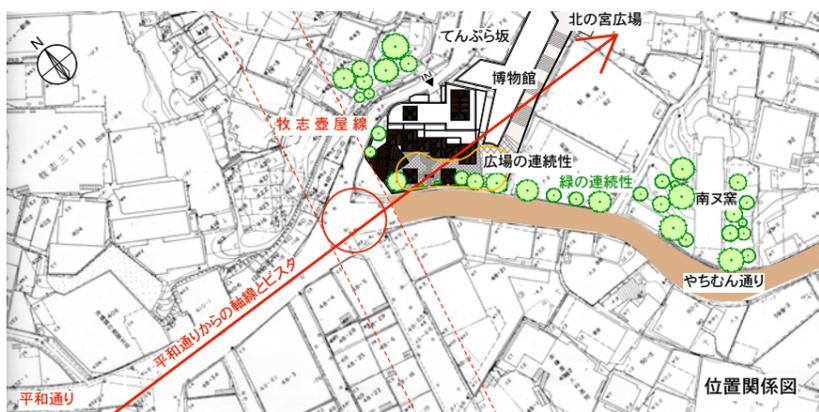
- ・壺屋の歴史を感じさせる新垣家に似た造りの木造赤瓦葺建物は、この地区のシンボルとなり、多くの町民の集いの場となるだろう。
- ・広場・店舗に隣接しているため、時には様々な催し物会場としても利用できる。
- ・近くには専用トイレ、キッチン、倉庫もある。

4 平和通りからの視線(ビスタ)を重視した計画。

- ・平和通りから多くの人々が壺屋地区を訪れる。このアプローチ軸線から見える建物の外観を魅力的なものとし、この陶芸センターや、やちむん通り人を誘導する。
- ・つまり、軸線の正面に琉球石灰岩石垣をもつ木造赤瓦葺の集会所が見え、その後ろに、雁行、セットバックした美しい建物本体が緑の間から見えるように配置計画と建築計画をする。



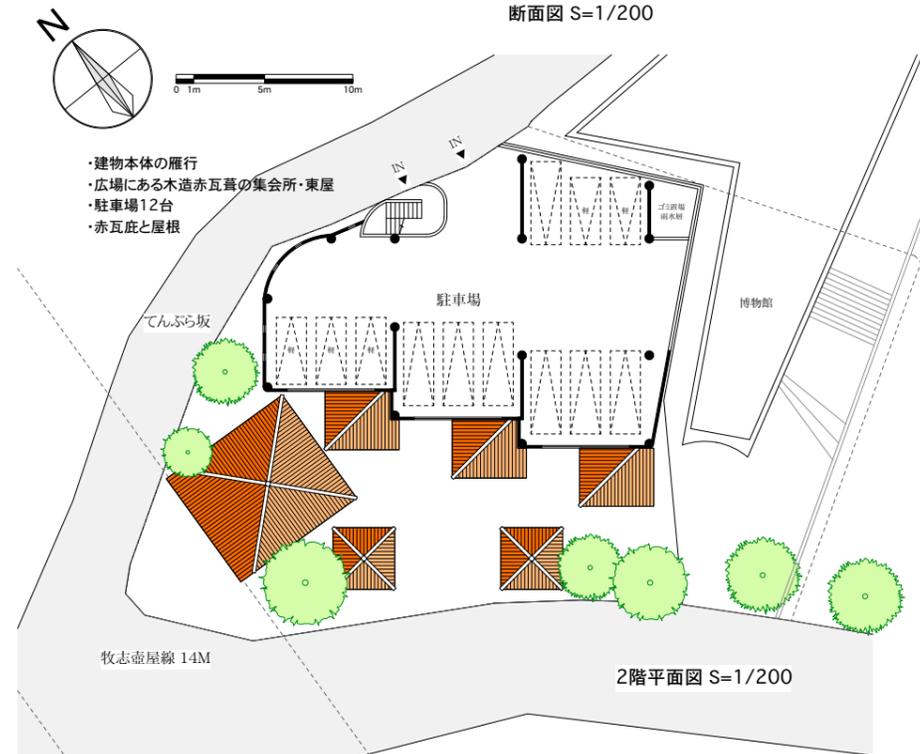
階数	室内面積	バルコニー等	駐車場
5階	135㎡	68㎡	
4階	185㎡	65㎡	
3階	199㎡	56㎡	
2階		10㎡	275㎡
1階	305㎡	75㎡	
合計	824㎡	274㎡	275㎡
概算工事費	254.3坪	84.6坪	84.9坪
室内	254.3坪×55万/坪		13,986.5万円
バルコニー等	84.6坪×15万/坪		1,269.0万円
駐車場	84.9坪×30万/坪		2,547.0万円
外構工事			600.0万円
合計			18,402.5万円



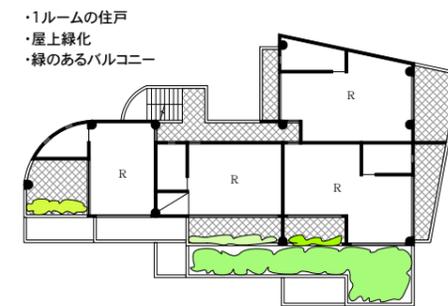
断面図 S=1/200



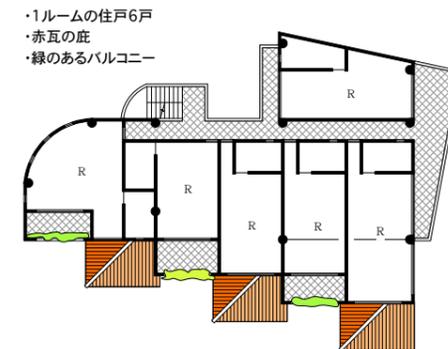
立面図 S=1/200



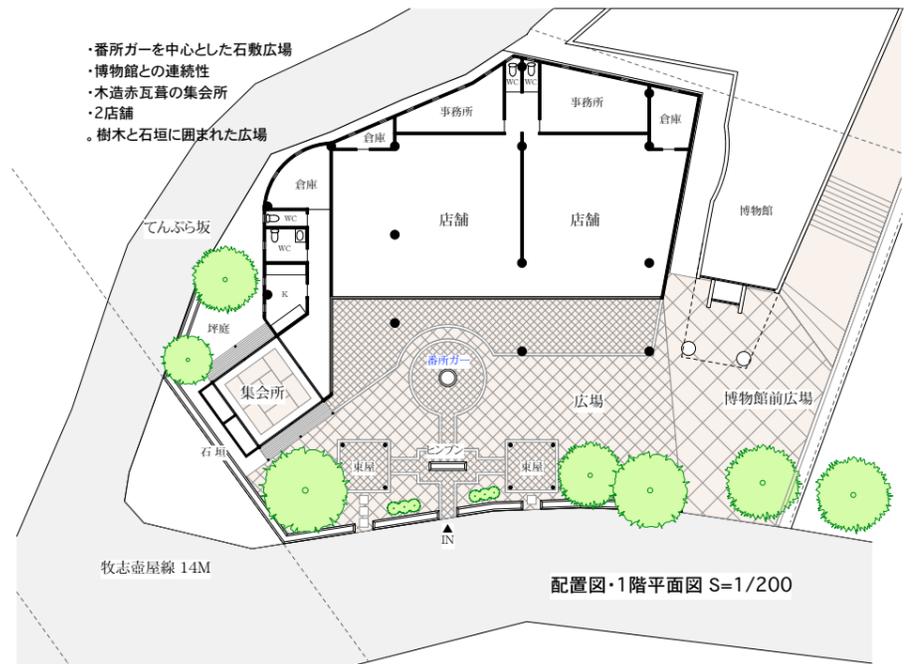
2階平面図 S=1/200



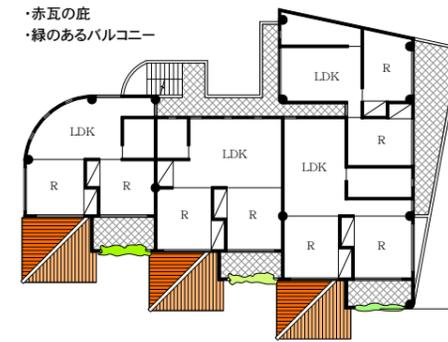
5階平面図 S=1/200



4階平面図 S=1/200



配置図・1階平面図 S=1/200



3階平面図 S=1/200